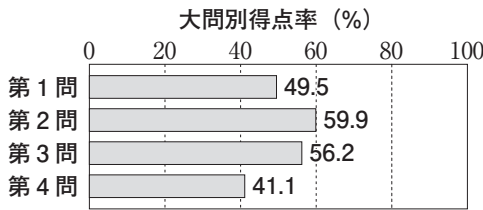
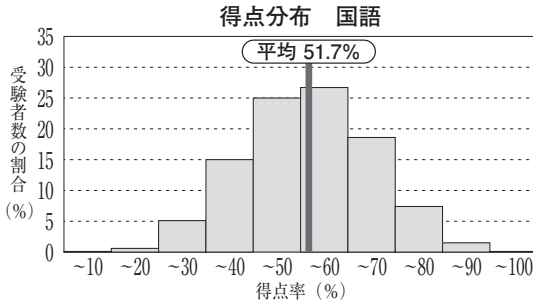


ここから国語についても、受験を意識した勉強を計画的に進めていくようにしよう！

I. 全体講評

「第2回4月センター試験本番レベル模試」の国語の平均点は一〇三・四点（二〇〇点満点）で、前回より多少は伸びたが、評論・漢文の出来がよくなかったのは残念であった。

現代文分野で評論は、小説と比べ内容は難しくにみえるが、論理的に書かれている文章なので、現代文の受験勉強をしていれば、確実に得点でき



る分野である。問3・問5・問6の出来がよくなかったことからみても、まだまだ受験勉強としての現代文の勉強が始められていない諸君が多いということであろう。ぜひ、ここから、論理的な文章読解の仕方について確認し、問題演習を受験勉強の計画の中にきちんと組み入れるようにしよう。また、漢字についても、(ウ)「広義」、(エ)「要請」という決して難しいとはいえない漢字の正答率が高くなかったことからすると、まだまだであるといえる。漢字は配点は少ないが、わかれば確実に得点できる。また、読解問題の理解にも関わってくる。時間をかける必要はないが、入試頻出の漢字ドリル等で、日々少しずつ覚えよう。また、文章を読んでいて、書いて当然であろうと思える字で、書ける自信の無い字に出会ったら、その場で確認する習慣をつけよう。そういった地道な努力で身につけられるものは意外と大きい。

古典分野は覚えておけば得点できる部分が多いが、特に漢文は、句法と重要漢字を理解すれば、文章をとりやすい。読解問題も、文章がとれば答えられる設問がほとんどである。にもかかわらず、問3・4・5・6とも、得点出来なかった人が多かったということは、やはり受験勉強が十分になされていないといえる。句法や重要漢字については、一度、集中的に覚えよう。後は、問題を

解く中でそれを徹底的に確認しよう。

古文についてはまずまずではあったが、「たまに当たった」という人もいたかもしれない。自信を持って「勉強している」とは言えない人は、読解のための古典文法（特に重要なのは助動詞の意味・接続、助詞、敬語など）や重要古語の意味については早急に身につけよう。

◆ ◆

4月から高3生となった。受験まであと一年：ではなく、あと、八か月あまりである。日々、意識的に行動をしないと、あっという間に、夏になり、秋になり、受験期を迎える。ここからは、国語についても計画的に勉強を続け、遅くとも夏休みの終わりまでに、「センターレベルはクリアできた！」といえるように頑張ろう。

II. 大問別分析

第1問 (評論)

情報処理のスピードを上げよう！

得点率は四九・五%と低迷した。今回は本文が四八〇〇字超で、選択肢文も三行のものが多く、「読む」作業に時間が取られたようだ。

近年のセンター試験は文字量や選択肢文の分量が多くなってきた。その対策は、「読む」速

度・選択肢を絞り込む速度を上げていくしかない。本模試の復習で自分の解き方を検証し、それを踏まえて読解問題に取り組んでもらいたい。

問1は(ウ)が二六・七%の正答率で極めて出来が悪かった。「広義」という言葉が分からない人もいたようだが、評論の読解には必須の言葉だ。また、「義」「議」「儀」など同音異義語に惑わされないようにしておこう。「請」「精」「静」が並ぶ(エ)も五八・八%と低かった。

問2は五八・八%とやや低かった。③⑤を選んだ人が一〇%強いたが、「エネルギーの利用形態の変化」とは何か、もう一度よく考えよう。

問3は三〇・九%と非常に低かった。③を選んだ人が三一・八%もいたが、最後の「食料が十分に手に入るといことは人の心を満たす」に引かなかった人が多かったようだ。確かに本文に直接は書かれていないが、「本文の趣旨」には矛盾していない。正解の④は「格差の拡大↓精神的な豊かさを志向」という因果関係が決定的に趣旨に反している。「本文に書いてあるか」だけでなく、「因果関係が正しいか」まで気を配ろう。

問4・問5は三行の選択肢に戸惑った人が多かったようだ。

問6は⑤が二五・七%、⑦が一六・七%と非常に低かった。細かい国語表現の記述に不慣れな人が多かったと思われる。問6の国語表現の問題は必ず出題されるので、しっかり復習しておこう。

第2問 (小説)

油断をせず読解力アップを心がけよう!

得点率がほぼ六〇%に達し、一応はセンター試験で要求されているラインに届いているので、きちんと根拠をもって解答して結果を出した人は、とりあえず自信をもってよいだろう。

やや変則的な二章からの出題だったが、大きく戸惑った形跡は見られない。二つの章とも少年期を扱った内容だけに、親しみやすい印象を与えたようだ。自分の少年期を思い出しつつ、感情移入したということも想像できる。ただし、いつもこのように取り組みやすいとは限らない。本年度のように、大人の女性の心情を扱うこともある。まずは、読解力を鍛えることを目標にしたい。

正答率が低かった設問は、まず、問1の語句の意味に関する設問で、(イ)「掛け値のない」が正答率五二・三%で、やや不満な結果である。③「嘘やでたらめがない」も全くの間違いではないが、誇張を含んだものということになる。

問2は今回最も正答率が低く、四割を切る結果となった。本文には書かれていないが、道の上の二すじの線が車の輪の跡であるということが、「考えて御覧なさい」というほど、人生にとつて重要な問題なのかといえば、それは「些末」なことだと解釈できよう。⑤の「保吉の知らないことをすべて教えよう」、②の「探求していく心を育てよう」はともにつうやを過剰評価している。

問3は④の誤答が二四・七%と多いが、荷車の車輪のまわる姿を思い出したのは、現在の保吉である。問6の表現に関する問題は正答①のかわり

に⑤、⑥への誤答が目立った。①の「何でしょう、二つ揃っているものは？」は「二つ揃っているもの」の補足説明をしているわけではなく、問いを繰り返しているだけである。

第3問 (古文)

本文に根拠を探して選択肢吟味しよう!

『漫遊記』の、花見で見初めた女性の許に行き、笑いにされた男の話である。得点率は五六・二%であった。

問1の語釈問題は、重要古語がポイントとなる(ア)と(ウ)はよくできていた。「もこそ」がポイントとなる(イ)は三割の正答率で、「見とがむれ」だけをたよりに選んでいる解答が多いようだ。

問2は「る・り」の識別問題で、正答率は六割であった。誤答が多かったdは、動詞の一部であるが、形容動詞の活用語尾としている。品詞の定義を再確認したい。

問3は、黒衣を着た人の男に対する発言「心ある」の意味を捉える問題で、五割弱の正答率であった。誤答が多かった④は、散る花を惜しむ点では正しいが、歌を詠むことが当然の前提となつてしまっている。傍線部の段階で黒衣の人が言えることから解答を選ぶようにしたい。

問4は、和歌の説明の問題で、これも正答率が五割を超えた。ポイントは、散る花を惜しむことを詠んだものであることと、古歌をそのまま詠んだことである。誤答が三割も集中した③は、手を加えて恋歌にしたとしており、間違っている。

問5は、自分を笑いにした人々に対する男の

心情で、正答率は七割を超えた。自作の和歌がたまたま古歌に似ていたとする③への誤答がやや多かったが、謡曲からとっていることは本文中に明示されている。

問6は人物に関する説明問題で、正答率は五割を切った。懐に入っていた銀が不可解だったのか⑤への誤答がやや多かった。本文でも判然としていないので、推測で選択肢を選ばないこと。

第4問 (漢文)

用字・句法、選択肢の違いに注意しよう!

『良齋文略統』の、赤壁の図や賦について書かれた文章からの出題である。得点率が四一・一%と低く、特に読解問題で苦戦している。

問1の語の読み問題は、(ア)「所謂」・(イ)「如此」は七割を超えて良くできていた。「如」は用字が多いので、整理して覚えておきたい。

問2の語句の意味の問題は、どちらも五割前後の正答率であった。(ア)は「堅」、(イ)は「千古」の字義が重要であったが、字義から離れて文脈から判断した誤答も見受けられた。

問3は、なぜ赤壁の美しさが知れ渡ったのか理由を問う問題で、反語文に注意しながら蘇軾の賦の功績を読み取る。正答率は四割を切り、誤答も分散した。中でも②は多かったが、反語文を取り損ねて、美しい景色はそう存在しないという内容になってしまっている。

問4は、賦の効能について読み解く問題であるが、正答率は三割を切り、誤答④は正答率を越えてしまった。傍線部の「加」がポイントとなり、

そもそも美しい景色が賦に書かれることによっていつそう人の心の中で美しくなることを読み取っている。④は無機質なものが美しくなるとしてしまっている。選択肢の違いに注意しよう。

問5は、使役の句法を含む書き下しの問題である。使役の「をして」が読めていない選択肢②・③への誤答は少なかったが、残りの①・④・⑤が文脈にふさわしい文意になるかの吟味で苦戦している。特に①は正答に迫る誤答割合だった。

問6の趣旨の問題は、正答率が三割を切り、誤答も分散した。問4に通じるが、古戦場が賦によって人々に親しまれることとなったことを読み取る。誤答で多かった①は史実の重要性と賦の功績を比べており、本文の趣旨からは外れる。

Ⅲ. 学習アドバイス

【現代文】

◆基礎学習を大切にし、文脈に即して読みこむ訓練を重ねよう!

現代文は「テクニク」や「思考力」が強調されがちな教科だが、前提となる語彙力・知識をおろそかにしてはならない。語彙をまとめたドリル等を次の「センター試験本番レベル模試」までに一通り終わらせておきたい。

加えて、センター試験の現代文は、長文の問題文と選択肢とを読みこなす、かなり高度な読解力が求められる。基礎知識の習得と並行して文脈に注意しポイントをおさえながら読む訓練も必要

だ。知識も読解力も一朝一夕には身につかない。地道な学習を重ねよう。

【古典】

◆古語・文法・句法など基本事項を、早い時期に済ませよう!

古典は何よりも知識が命だ。センター試験の古典は読解力が重視されるが、単語や文法が未熟なまま、読解力を身につけることは不可能だ。知識を完成させたいので、どこまで読解演習を深められるかが勝負である。このことを踏まえれば、次の「センター試験本番レベル模試」までに、古典文法はできれば全範囲、少なくとも助動詞までは終わらせて臨みたい。また、助動詞の学習が済んだ時点で「識別」の学習にも取り組んでおくと、古文の問1・2のような問題にも対応できて、得点を一気にアップできる。古文単語は手持ちの単語集などを一回は読み終えておきたい。漢文の句法も一通り終わらせることを目標としたい。ここでくじけると、夏以降の学習スケジュールに大きな負担が生じてしまう。頑張ろう!

【過去問研究】

まだ早い、と思うかもしれないが、ぜひ今からスタートしてほしい。過去問だけで二十五年分もあるのだから、入試直前に慌てても間に合わない。具体的な計画を立てて進めていこう。